

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム北花山		
所在地	山科区北花山中道町109-12		
自己評価作成日	平成23年12月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100124&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100124&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年1月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホーム北花山では特に食事の場面に力を入れています。  
 毎日、利用者の方と献立を決め、共に作っています。  
 食事の一品の中にも多種類の食材を入れてバランスよく皆様と共に食事を頂いています。  
 そのため食事の時間帯になると自然とリビングに活気がでて楽しい雰囲気に包まれています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成10年に同法人の最初のグループホームとして立ち上げ、3年前に勤修から現在地に移転して来ました。地域交流への取り組みに力を入れ、自治会長や民生委員の協力も多く、「もっとグループホームのPRをしては」等の助言があり、案内を町内に回覧し事業所の併ぎに近隣の方に多く参加してもらえるなど地域交流が着実に進められています。利用者と一緒に作る食事は、今までの家庭での延長を大切に考え利用者の出来る事を見つけ、利用者は自然に食事作りを楽しんでいます。当該ホームの13年間の歩みの実績は、その理念に謳う「その人らしい生活を支え、それぞれの力を発揮できる場所づくり」の実現に向けた職員の支援によって、利用者の安心に繋がっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に、ホーム独自の理念を作成し、玄関に掲示している。 また、理念についての研修・勉強会などがある。	開設時に職員で話し合い「その人らしい生活を支え、それぞれの力を発揮できる場所づくり」と理念に謳っています。全体会議の場などで理念について話し合い、利用者一人ひとりの残存能力や得手、不得手を見極め、利用者への理念に沿った支援となっているかを振り返る機会としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の手渡しから、地域の催しに参加している。町内会に参加している。 去年から行事の一環として餅つき大会をして地域との交流を図っている。	天気の良い日の散歩や、買い物などで地域の方と挨拶を交わし、協力的な関わりを得ています。町会に加入し回覧版や運営推進会議で情報を貰い地藏盆や祭りなど、地域行事に利用者とともに参加しています。又ホームの行事の案内を町内に回覧し多くの参加があり交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアサポーター講座の開催など、事業所の特性を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長、民生委員、地域包括の職員が参加し利用者の状況報告や、行事イベント等に助言を頂き、次に活かしている。	運営推進会議は、民生委員・自治会長・地域包括センター職員などの参加を得て隔月に開催されています。「グループホームのPRが必要、パンフレットや広報紙を配布しては」「行事の時にに行ける場所」等、活発な意見を得て、運営に活かしています。家族には案内と議事録を配布して、会議の存在と内容は知って貰うように努めています。	家族の方々には案内や報告を行っていますが参加が少ない状況です。事業所としても課題と考えられていますが、時間や行事との連動など更なる工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護事業部の組織として、連絡を取り合っている。	運営推進会議の議事録を区役所に手渡しなど、繋がりが出来ています。困った事や解らない事は電話でやり取りをしています。行政主催の地域密着型グループホーム連絡協議会に出席し、様々な情報を貰う等少しずつ関係が出来てきています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束の研修がありし、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。	身体拘束研修を受講し、ホームで伝達研修を行っています。日々のミーティングで拘束につながる事をしていないかを確認すると共に、気になる時は注意し合っています。全ての出入り口の施錠はせずに、利用者が出て行こうとした時は出来る限り一緒に行くなど自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待の研修がありし、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として権利擁護の研修がありし、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、その都度に書面と口頭で説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	京都市の『介護相談員』受け入れや、意見箱を設置している。	家族の来訪時や電話、年2回アンケートを取り、意見や要望を聞いています。アンケート結果は、法人として項目ごとに整備され家族に伝えていきます。また出された意見は職員で話し合い、リビングの掃除や外出への要望等、季節の外出や全体の取り組みとして運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見や話合う機会を作っている。日々のコミュニケーションからも意見を聞くように努めている。	年2回のアンケートやミーティング時に、職員が意見を出す機会があります。積極的な意見交換を行い、業務に関しては互いに改善したり管理者や統括部門を通し解決に向けて取り組んでいます。職員から出された意見から、全体の外出機会の検討などに結びついています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の『自己申告書』や、その都度確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画が立っている。研修の内容を職員に配布し受講を勧めている。外部の研修も参加しやすい体制である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加している。 研修・交流会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傍に寄り添う機会を増やし、不安を解消し、関係を築くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境作りを心がけ、面会時に安心して頂けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と管理者で面接を行い、本人と家族の思いを傾聴し、支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤時の『ただいま』と、退勤時の『行ってきます』。 日常生活全般を利用者と共に行うことにより、料理の味付けなど利用者に教えてもらい、お互い支えあうような関係でいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度相談をし、状況を共有する事で、本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会など、本人の関係が途切れないように支援している。	友達の来訪時には話が発展するように支援しています。前に住んでいた家や別荘を見に行ったり、馴染みの美容室に行く時もあり昔馴染の関わりや思い出の場所への支援に努めています。また編み物や料理など趣味の継続で、利用者の楽しみが増えるように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での部屋の行き来、一緒に過ごす事により、職員とはまた違う関係を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方でも、郵便物の転送や、その後の付き合い(経過)がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤め、本人の本意を尊重している。	家族から情報を得たり、日々の関わりの中で思いの把握に努めています。ケアプランの見直し時には、家族と利用者の要望を聞いており、医師の疎通が困難な人には表情や利用者目線に立った関わりで思いを汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族がケアカンファレンスに参加し、共にアイデアを出し合いケアプランを作成している。 当日参加出来ない職員は、事前に意見を出し合っている。	入居時のケアプランは暫定1ヶ月で評価見直しを行い、基本的には3ヶ月に1度評価しています。変化がなければ6ヶ月ごとにプランの見直しが行われ、利用者や家族には見直しに向けて、希望用紙を配布しカンファレンスへの出席を依頼しています。医療面は医師や訪問看護の情報を得て、適宜プランに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや結果は、ケア記録に書いている。 管理日誌や連絡帳を利用して、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に個別で外出したり等、家族と調整して対応している。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区役所との関わりから、地域すこやか学級の参加など、本人に合った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族に決めてもらっている。 かかりつけ医と適宜連絡を取り合っている。	入居時にはかかりつけ医の継続など意向を聞き、協力医の往診状況など説明をしています。殆どの方が往診のある協力医に変更しています。協力医から月2回の往診があり、日々の健康管理に訪問看護に来てもらうなど利用者・家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、看護師とは相談しあい、情報の共有化・ケアに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、随時病院関係者と連絡を取りあい、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っている。 重度化した際に、主治医・看護師や家族との話し合いを設けている。	看取りについて、入居時に事業所として出来ることや出来ないことなどを説明しています。重度化した際は、定期的に医師・看護師も交えて話し合っています。今まで看取りの経験はありませんが、事業所としては看取りを行っていく姿勢があり今後、職員との話し合いや研修を組み込んで行きたい意向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として研修があり、参加・伝達研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、消防署などの関係機関と連絡・調整を図っている。	年2回消防署の立ち合いの基に利用者とともに昼夜想定避難訓練を行い、2カ月に1回自主訓練を行っています。運営推進会議で訓練のお知らせと結果報告をし、町内にも回覧板で知らせていますが地域の方の参加はなく、今後の課題と考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時と年に一度のマナー研修があり、丁寧な言葉づかいを心掛けている。	法人のマナー研修を受講し、伝達研修を行い職員の理解を深めています。職員同士で利用者について話す時はイニシャルを使ったり、トイレや入浴の誘導は小声で話すなど配慮していますが、互いに気付いた時は注意し合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、本人が決定しやすいような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは、大体しか決まっておらず、その日の体調や気分により変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等は、利用者と共に進めるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力に合わせて、調理や盛り付け、配膳などを行っている。	食べたい物や行事食の献立を利用者と一緒に考えたり、出来る事を見つけて、皮むきや配膳、盛り付けなどを職員と一緒にしています。行事食や外食、喫茶店に行く事も楽しみの一つになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事摂取量や、必要に応じて水分摂取量などを記録している。 献立は、同法人他事業所の栄養士が考えたメニューを基本に、利用者と一緒に決めていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの介助と、週に一回の歯科衛生士によるケアで、支援を行っている。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を付けて、本人の排泄パターンを把握する事により、本人の負担を軽減できるような支援を行っている。	排泄チェック表を使いパターンを把握すると共にサインを見逃さない様にして、出来る限りトイレでの排泄を成功する様に誘導したり、失敗を無くすよう支援しています。安易におむつを使用せず、夜間も必要な利用者にはトイレへの誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し、本人の排泄パターンを調査する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日等は決まっておらず、外出予定やその他の事情に考慮して、入浴していただく支援を行っている。希望に合わせてゆっくり入浴して頂いている。	毎日入浴の準備を行い、週2～3回を目途に希望時間に合わせて入浴支援を行っています。職員と1対1になる機会でもあり、信頼関係が深まっています。入浴拒否傾向の方は無理強いをせず、声かけの工夫やタイミングを見て入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態をみて、昼寝を進めてみたり、記録に睡眠の時間帯を記入し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を、確認するシステムを構築し、用途や副作用・処方量等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で、それぞれ得意な事で活躍出来る場面を作れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マンツーマンで個別対応に努め、買い物や散歩に行くように心がけている。	車の通りが激しい為出かける機会は少ない中で、散歩を兼ねて日々の買い物に出かけています。今年度の活動目標に外気浴を位置づけ、花壇を作りベンチを置き外でゆっくりできる場所を拡張して行く予定です。車で動物園や神社、仏閣等に行き、四季折々の自然を楽しんでいます。	

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物等のシーンで、個別で買い物をしたりしている。 家族に了解を得て、小額なら自己管理されている利用者も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、自由に使える状況である。 当然、込み入った内容の電話であれば、自室で連絡する事も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は一般家庭にある物を使用している。 雛人形や七夕・クリスマスなど、四季折々の飾りでレイアウトしている。	居間兼食堂は大きな窓や照明で明るく、温度調整や風通しもよく居心地良く過ごせる空間作りをしています。テレビの音も話し声が聞こえる程度にする等配慮しています。廊下の観葉植物と長椅子で、少し離れて寛げる場所になるよう工夫し、利用者が皆と一緒に作った壁飾りも思い出をたどる作品の一つになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが狭いので、独りになれる様なスペースはありませんが、気の合う利用者同士が、自然と同じテーブルに着く様な配慮を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や小物を持参していただく事により、出来る限り自宅の雰囲気を出し、その人らしい空間になっている。 環境の変化に配慮している。	自宅からテレビや絨緞、整理ダンス、写真、猫の飾り物や観葉植物を持ち込み家と同じ設えにしています。自分の過ごしやすい様に部屋の模様替えを適時行い楽しんでいきます。各部屋の飾りは利用者の好みで選び、正月など好みの雰囲気作りがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、各居室に表札を付け分かりやす工夫し、GHが利用者の家である事を表現する工夫をしている。		